

農作物技術情報 第6号 水稻

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

刈遅れは胴割粒の発生等による品質低下や食味低下につながるため、適期刈取りを心がけ、高品質米生産を目指しましょう。

- ・ 黄化粳80～90%に達したらテスト粳すりを行い、刈取りの可否を判断しましょう。
- ・ コンバインや乾燥調製施設の点検、整備は早めに行いましょう。
- ・ 粳の乾燥は二段乾燥を心がけ、玄米水分15%以下に仕上げましょう。
- ・ 異品種混入（コンタミ）対策を徹底しましょう。

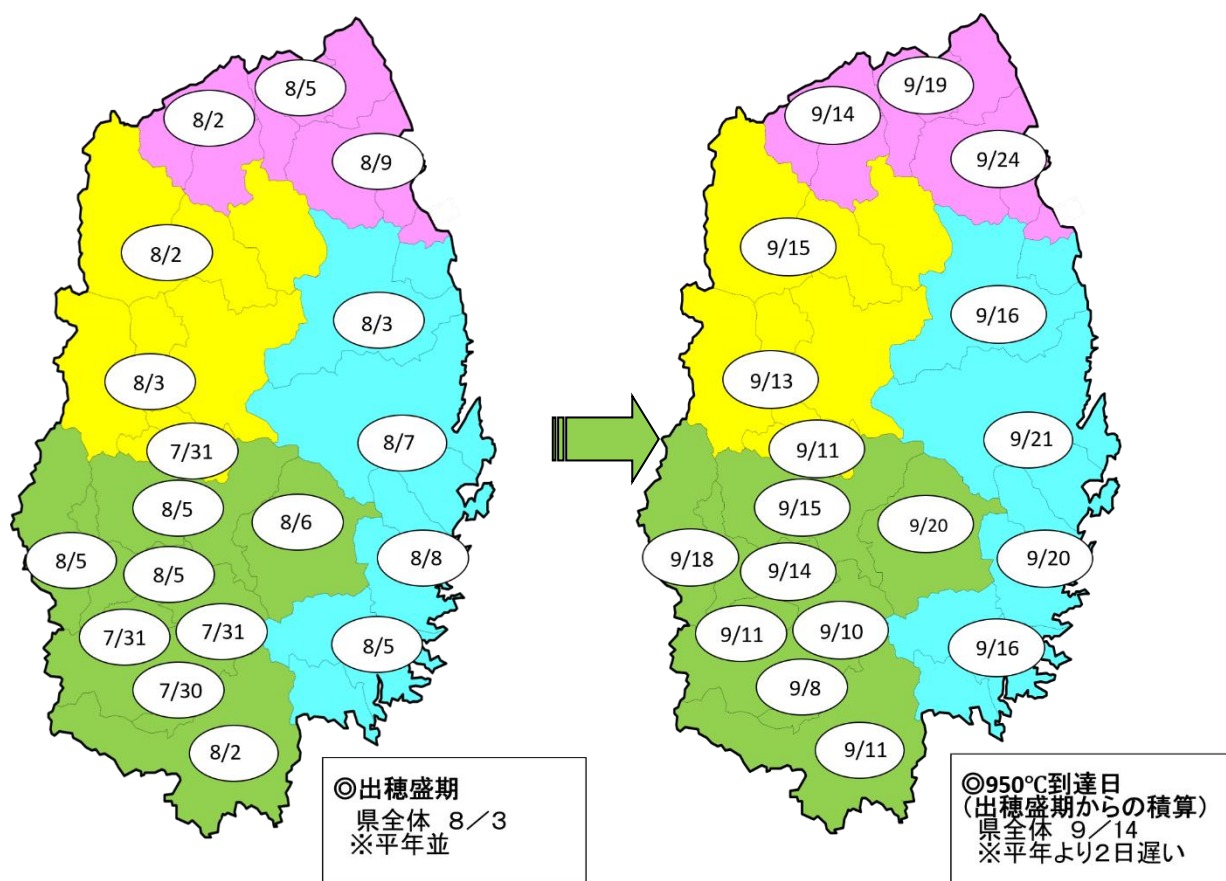


図1 各地域の出穂盛期から予測した刈始めの目安日（積算気温950℃到達日）

- 1) 左側：各地域の出穂盛期（月/日）、右側：刈始めの目安（月/日）
- 2) 刈始めの目安は、各地域の最寄りのアメダス地点について、日平均気温を積算して950℃に達する日。
(8月22日までは各地域の代表アメダスの現況値、8月23日以降は平年値を使用)

1 今後の気象の見通し

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区気象台8月20日発表）では、東北太平洋側の気温は高い確率が80%と予想されており、期間の前半（8月22日～9月4日）は気温がかなり高くなる見込みです。

2 早期落水の防止

- 完全落水は排水不良田で出穂後30～35日、排水のよい水田で出穂後35～40日頃を目安とします。刈取り時期を見据えて落水時期を判断しましょう。
⇒ 極端な早期落水は腹白粒増加や千粒重低下、胴割粒発生の原因となるので注意します。
- 出穂が遅いほ場などにおいて、登熟の早い段階で用水が利用できなくなる場合では、排水口を閉じるなどして、土壌を乾かし過ぎない管理とします。

3 適期刈取りの遵守

(1) 刈取り適期の予測

- 刈始めの目安となる出穂後の日平均気温の積算気温950℃到達日は平年より2日遅い見込みですが、気温が高く推移した場合、平年より早まる可能性があります（図1、表2）。収穫適期を過ぎると胴割粒の発生等の品質低下や食味低下につながるため、刈遅れないよう十分に注意してください。
- 登熟の進み具合は気温・日照時間だけでなく、栽培管理も影響します。積算気温の予測のみに頼らず、実際の籾の黄化をよく観察した上で刈取りの可否を判断することが大切です。
- 共同乾燥調製施設を利用する場合は、施設の稼働時期を確認し、作業計画を立てます。

表1 おもな品種の積算気温による刈取り適期の目安

品種名	刈取り適期の積算気温（℃）
ひとめぼれ	900～1,050
金色の風、銀河のしずく、白銀のひかり、いわてっこ	950～1,050
あきたこまち	950～1,100
ヒメノモチ、もち美人	950～1,050

表2 各地域の出穂期と積算気温950℃到達日（刈始めの目安日）の予測

地帯	出穂期（月/日）						登熟積算気温950℃到達予測					
							予測①（平年±0℃）			予測②（平年+2℃）		
	本年			平年差（日）			950℃到達日（月/日）			950℃到達日（月/日）		
	始	盛	終	始	盛	終	始	盛	終	始	盛	終
北上川上流	7/29	8/2	8/8	-2	-2	0	9/9	9/14	9/21	1	1	3
北上川下流	7/29	8/3	8/8	-2	0	1	9/8	9/13	9/19	1	2	3
東 部	8/1	8/7	8/13	1	3	4	9/12	9/18	9/28	3	5	9
北 部	8/2	8/5	8/9	2	2	1	9/15	9/18	9/25	4	3	4
県 全 体	7/29	8/3	8/8	-2	0	1	9/9	9/14	9/20	1	2	3

1) 出穂時期…始期：10%、盛期：50%、終期：90%の水田で出穂した日。

2) 積算気温950℃到達予測…日平均気温が各地域のアメダス平年値並（±0℃）、2℃高い（+2℃）場合の950℃到達日。（8月22日までは各地域の最寄りアメダス現況値、8月23日以降はアメダス平年値）。

(2) 刈取り適期の判断

積算気温による予測は、栽培条件や日照の多少によってずれる場合があるため、最終的な刈取りの判断は次の手順により、実際の登熟状態を確認しておこないます。高温により刈取り適期が早まる場合もありますので、刈遅れには十分注意しながら、ほ場ごとの登熟状況をよく観察したうえで判断します。

ア 黄化籾割合のチェック

平均的な大きさの穂を観察し、黄化した籾が1穂数に占める割合を確認します。

刈取り適期は「黄化籾割合80～90%」（参考：図3）です。



図3 黄化籾割合 90%の穂の状態

イ テスト籾すりによるチェック

黄化籾割合が80～90%に達したら、数穂を採取しテスト籾すりします（図4）。

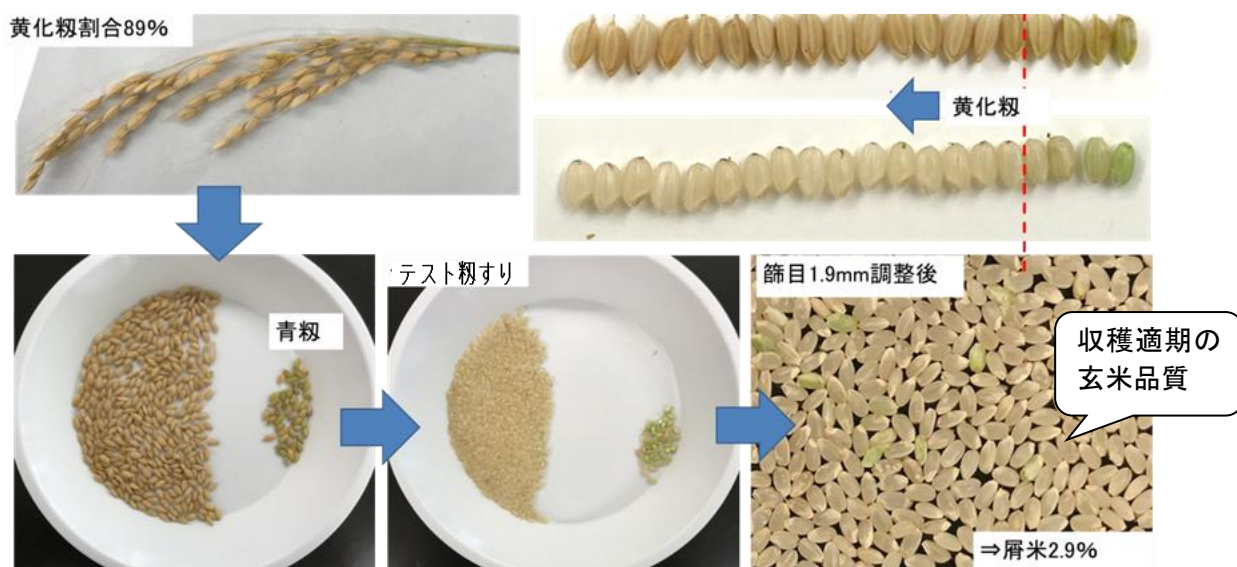


図4 黄化籾割合 80～90%時のテスト籾すり後の玄米の状態

(3) 収穫作業の留意点

- ・ コンバイン収穫では、作業開始前に籾水分が20～25%の範囲であることを確認します。
- ・ 収穫後は生籾のまま放置せず、速やかに乾燥調製施設へ搬入します。
- ・ 水口付近などで登熟が大幅に遅れている部分や、倒伏した部分は可能な限り刈分けを行い、青未熟粒等の混入を避けます。
- ・ 倒伏により穂に土砂などが付着した場合、収穫・調製機械に負荷がかかるだけでなく、玄米の汚損につながる恐れがあるので、作業機の清掃を念入りに行います。

4 乾燥・調製の留意点

玄米品質を確保するため、仕上げ水分15.0%以下を徹底し、丁寧な乾燥・調製を心掛けましょう。

(1) 胴割粒の発生防止

- ・ 火力乾燥においては、1時間あたりの水分減少率（毎時乾減率）を0.8%以下とします。
⇒ 乾燥速度を上げすぎると胴割粒が発生するため、急激な乾燥・過乾燥に注意します。
- ・ 4%以上の水分差がある籾を一緒に張り込むことは避けます。
⇒ 籾水分18%の時に一旦乾燥機を止めて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して籾水分の均質化を図ります（二段乾燥）。
- ・ 自然乾燥（ハセ・棒かけ）は2週間以内を目安とし、時々掛け替えして乾燥を促します。

(2) 粳すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ・ 肌ずれを防止するため、**玄米水分15.0%以下の適正水分**で粳すりを行います。
- ・ ゴムロールのすき間は、粳の厚さの約1/2 (0.5～1.2mm) が標準です。
- ・ 脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

(3) ライスグレーダー

出荷製品用は、LL (1.9mm) の篩い目使用を基本とし、整粒歩合80%以上を目指します。

5 異品種混入の防止

- ・ 産地から出荷する米穀は「表示銘柄以外の混入のない米」であることが必須です。
- ・ 異品種混入（コンタミ）が発生すると、品種名の表示ができなくなることに加え、産地全体のイメージダウンとなります。
- ・ コンバイン、運搬機、乾燥機や粳摺機など収穫・乾燥・調製機械や施設内には、前年の粳等が残留している可能性があるため、これらの**機械や施設の点検・清掃**を十分に行います。

6 農作業安全

収穫時期は日没が早まり、例年農作業事故の発生が多くなります。余裕をもった作業計画を立てるとともに、作業機に反射シールを貼る等、交通事故防止対策を講じます。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

1 クマに遭遇しないために

- ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
- ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール

2 クマを寄せ付けない

- ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
- ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。

3 出会ったときの行動

- ・ 背を向けて走って逃げない
- ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる

4 襲われそうになったら...

- ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第6号 畑作物

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 大豆 紫斑病とマメシンクイガの防除時期を迎えていますので、収量・品質確保のため、必ず薬剤散布を実施しましょう。
- ◆ 小麦 令和9年産小麦の栽培が始まります。収量確保のためには、越冬前に十分な生育量を確保することが必須です。排水対策は早めの実施し、播種は無理せず土壌条件が整ってから適期に行いましょう。

大豆

1 生育概況

7月下旬から8月上旬にかけての降雨により、やや湿害気味の生育でしたが、現在は回復し順調に生育が進んでいます。また、8月中旬以降は適度に降雨があり、適度な土壌水分を維持できているほ場が多く、順調に莢が発達しています。

現在、多くのほ場で子実肥大期となっており、紫斑病とマメシンクイガの防除時期を迎えています。

2 今後のほ場管理

(1) 排水対策

集中豪雨による冠水・浸水被害や湿害を避けるため、畦溝と排水溝を連結するとともに、明渠や水尻にゴミなどの詰まりや崩れがないか確認します。また、排水口（フリードレン下部）の高さを確認し、ほ場内排水を促すよう掘り下げてください。

(2) 病虫害防除

マメシンクイガ（写真1）の防除適期は、県北部で8月第5半旬、県央・県南部で8月第6半旬となっています。

紫斑病の防除適期は、若莢期（開花後20日頃）～子実肥大期（開花後40日頃）です。薬剤が莢によく付くように、散布します。

また、吸実性カメムシ類（写真2）の発生が見られるほ場では、有機リン剤や合成ピレスロイド剤等による防除を実施します。

農業用ドローンでの防除は莢への薬剤付着が他の防除方法より劣るため、効果が不安定となることがあります。例年病虫害の被害が大きいほ場は、地上防除の実施を検討してください。



写真1 マメシンクイガの成虫

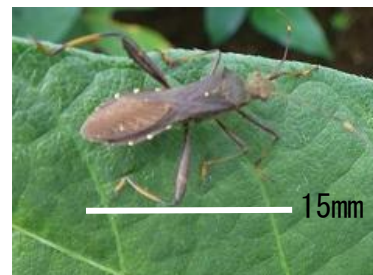


写真2 ホソヘリカメムシ

(3) 手取り除草の実施

雑草は収穫時に汚損粒の原因となりますので、早めに除草します。

シロザやアメリカセンダングサなどの大型雑草のほか、近年拡大傾向にある帰化アサガオ類やアレチウリなど、防除が難しい雑草が発生しているほ場では、**雑草が種子をつける前に除草**を行ってください。

3 台風対策

台風の影響を受けやすい時期になります。土壌表面の排水を促進するため周囲溝や排水口等を点検・補修し、土壌表面水を速やかに排水する等、必要な対策を講じてください。

小麦

1 ほ場の選択

小麦は湿害に弱く、排水性の不良なほ場では収量および品質の低下を招きやすいため、**可能な限り排水性の良好なほ場を選定**する必要があります。

また、連作を行うと、雑草の増加や土壌病害のまん延、地力の低下を引き起こし、生産性の低下につながるおそれがあります。このため、**他作物との適切な輪作体系を導入することが重要です。**

2 排水対策

水稻収穫後のほ場に小麦を作付けするほ場では、サブソイラによる**弾丸暗渠の施工**を行い、**土壌の排水性改善**を図ります。また、地表水を速やかに排水するため、**額縁明渠**を設置します（写真3）。

額縁明渠は必ず排水路に接続し（写真4）、生育期間を通じて点検および補修を行うことが重要です。

重粘土ほ場など、**地下排水が難しいほ場においては、ほ場内小明渠の施工が有効**（写真5）です。なお、施工に際しては一部の小麦を踏圧・損傷する場合がありますが、収量への影響はほとんどありません。



写真4 排水口の掘り下げ

水尻は大きく掘り下げ、排水溝とつなげ、フリードレーン下部から排水。



写真3 排水溝（額縁明渠）の設置

排水溝への集水は耕起土層からの流出が多いので、排水溝は耕起深より少なくとも5～10cmは深く掘ることが必要。



写真5 ほ場内小明渠の施工例

3 土壤改良資材・たい肥の施用

(1) 土壤改良資材

県内の水田転換畑では、土壤 pH が低下しているほ場が多く見られます。土壤 pH が低下すると、麦類の生育が阻害されます。このため、適切な土壤 pH (6.0～6.5) を維持するために、石灰資材を施用することが重要です。

なお、石灰資材の施用効果は直ちに現れるものではありませんが、ほ場管理の中で継続的に施用することが重要です。

(2) たい肥

たい肥等の有機物の施用は、土を膨軟にする、根張りをよくする、施肥の効果を高めるなどの利点があります。継続して施用すると化学肥料のみを使用したほ場より収量・品質が向上します。石灰資材と同様、計画的なほ場利用の中で積極的に施用してください。

4 プラウ耕

水稻栽培では一般的にロータリ耕が行われますが、小麦栽培では雑草の抑制や水はけの改善のためにプラウ耕が望ましいケースもあります。プラウ耕等を行う場合は、作土や耕盤の深さなどを調査し、不良な重粘土、やせた下層土が作土に混入することを避けるなど、土壤タイプを考慮しながら事前の実施可否を十分に検討してください。

5 砕土・整地

ほ場内に大きな土塊が残存している場合は、砕土および整地作業を十分に行う必要があります。土塊が多いと播種精度が低下し、発芽不良などの問題が生じやすくなるため、水稻からの転換後 1～2 年間は、特に丁寧な砕土・整地を行うことが重要です。

特に砕土の良否は発芽に大きく影響することから、一般に地表から約 10cm の層における砕土率（粒径 2 cm 以下の土塊の割合）を 70%以上確保する必要があるとされています。

砕土作業は、ドライブハローやバーチカルハローなどのハロー耕やロータリ耕により効率的に行うことができますが、作業時の土壤水分条件によっては砕土性が低下する場合があるため注意が必要です。また、プラウ耕を実施した場合には、砕土作業をプラウ耕の方向に対して直角または 45 度の角度で行い、その後はほ場の均平を図るために整地を行います。

なお、ロータリ耕後は土壤が水分を保持しやすくなり、降雨後に乾きにくくなる傾向があるため、作業は播種直前に実施することが望まれます。アップカットロータリ（逆転耕）を用いると、表層の砕土率が高く、下層は粗い二層構造となるため排水性が向上し、有機物の埋設性にも優れることから、その後の播種作業を円滑に行うことができます。

6 播種

(1) 適期播種

播種期が遅れると、根張りが不十分になり、凍上害が発生しやすくなります。また、茎数や穂数が不足することにより、収量が減少するリスクが高まります。このため、適期に播種するよう心がけてください（表 1）。

表 1 県内の地帯別播種適期

地 帯	播種期(月日)	
	早限	晩限
高標高地	9 月 15 日	9 月 25 日
県北部	9 月 15 日	9 月 30 日
県中部及び沿岸北部	9 月 20 日	10 月 5 日
県南部(沿岸南部)	9 月 25 日	10 月 20 日

(2) 種子予措

種子は、病害汚染等の無い健全で優良なものを使用します。種子伝染性病害の発生防止の観点から種子消毒は必ず実施します。

(3) 施肥

麦類の施肥は、越冬後の追肥の占める割合が高いですが、基肥により越冬前に十分な生育量を確保することが、収量の増加や品質の向上に大きく影響します。

標準的な基肥量を表2に示しています。なお、土壌改良目標値を満たしたほ場での施肥管理は、「補給型施肥基準」を適用することができます。

補給型施肥とは、「ほ場からの収穫物による肥料分の持ち出し量」と浸透水による「土壌養分の溶脱量」を施肥によって補給する、という考え方で作られた施肥基準です。この施肥基準では、たい肥と化学肥料を区別することなく、含まれる肥料成分の合計で施肥設計しますので、たい肥の活用で肥料費を抑えることが可能です。詳しくは最寄りの農業改良普及センターにお問い合わせください。

表2 麦類の標準的な基肥量（成分 kg/10a）

窒素 (全域)	リン酸		カリ (全域)
	中南部 転換畑	中北部 普通畑	
4～6	10～15	15～20	10～12

※水田から転換して初年目、2年目の「ゆきちから」の基肥は、茎数確保のため窒素6 kg/10a とする。

(4) 播種量と播種方法

ア 播種量

品種別の播種量・目標出芽本数は、表3を基本とします。

砕土が粗い、土壌が湿っているなどの条件下では苗立ち率が低下します。このような条件下で播種する場合、播種量を1割程度増やすなどの対策を行います。

また、降雨などによりほ場が乾かず条件が整わない場合は、適期を過ぎたとしても無理に作業を行わず、ほ場条件が改善するまで播種を中断します。この際は、播種晩限から1週間遅れるごとに、播種量を1割ずつ増やします。

ナンブコムギは、前作で縞萎縮病が発生したほ場への作付けをできるだけ回避しますが、やむを得ず連作する場合は、播種時期をできるだけ適期内の晩播とし、播種量は標準の3割増とすることにより、茎数の確保を図ります。

イ 播種方法

ドリル播きの播種深度は3 cm 程度を目標とし、全面全層播きでは、均一に散播のうえハローなどで浅く（深さ5 cm 程度）攪拌し覆土します。播種深度が深すぎると、出芽のバラツキや出芽率の低下、生育の遅れが問題になり、浅すぎると、凍上害や鳥害、干ばつ害、除草剤の薬害などが生じやすくなります。

表3 品種別の播種量と目標出芽本数

品種名	播種量 (kg/10a)		目標出芽本数 (株/㎡)
	ドリル播	全面全層播	
ナンブコムギ	4～6	5～8	70～110
ゆきちから	6～8	8～10	120～160
銀河のちから	6～8	8～10	120～160
ナンブキラリ	6～8	8～10	110～150

7 雑草防除

令和7年産では、雑草が多発したほ場の小麦からやや高い濃度のDONが検出されています。雑草防除を確実に実施します。

(1) 非選択性除草剤

特に連作では、前年に発生した雑草が播種前に出芽し、耕起で十分に埋没できない場合があります。このような場合、耕起前または播種前に非選択性除草剤を利用し、雑草の出芽個体を防除します。なお、難防除雑草のネズミギ（イタリアンライグラス）に対しては、耕起前に（イタリアンライグラス出芽後）に非選択性除草剤を散布し、播種後の土壌処理剤散布までの期間をできるだけ短く（10 日以内）すると効果的です。

(2) 土壌処理剤

初期に発生した雑草ほど生育期間が長くなり、小麦の生育に大きな影響を及ぼしますので、播種後に出芽する雑草を土壌処理剤によって確実に防除します。

耕起から播種、土壌処理剤散布までは、間隔を開けずに実施します。また、高い効果を得るため、①碎土・整地を丁寧に行う、②散布のタイミングを逃さない、③適湿条件で散布することが重要です

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyoushizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第6号 野菜

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共通 台風等の気象災害に対する事前対策を徹底しましょう。
- ◆ 果菜類【施設】 気象条件に応じた温湿度管理やかん水管理を徹底しましょう。
- ◆ 果菜類【露地】 草勢維持と病害虫防除を徹底しましょう。
- ◆ 葉茎菜類 雨よけほうれんそうは適期の品種切り替えと病害虫防除を徹底しましょう。露地葉茎菜類は病害虫防除と適期収穫を徹底しましょう。

1 生育概況

（1）果菜類【施設】

- ・ きゅうりは、抑制作型の定植が終わり、概ね順調に生育しています。病害虫では、べと病やアブラムシ類の発生が見られます。
- ・ トマトは、梅雨時期の日照不足により草勢の低下等が見られていますが、回復傾向にあります。病害虫は、灰色かび病、葉かび病、すすかび病、アザミウマ類、コナジラミ類、オオタバコガの発生が見られます。
- ・ ピーマンは、梅雨時期の日照不足により生育は緩慢となっています。病害虫は斑点病、アザミウマ類、タバコガ類の発生が見られます。

（2）果菜類【露地】

- ・ きゅうりは、日照不足により草勢が低下し、果形の乱れや流れ果が見られています。病害虫では、べと病や炭疽病、褐斑病、オオタバコガの発生が見られています。
- ・ ピーマンは概ね順調な生育ですが、日照不足により前年よりも草勢は緩慢となっています。病害虫は、斑点病、斑点細菌病、タバコガ類の発生が見られます。

（3）葉茎菜類

- ・ 雨よけほうれんそうは、日照不足により株が細い状況でしたが、地域によっては回復傾向です。病害虫は、萎凋病、アザミウマ類、シロオビノメイガの発生が見られます。
- ・ 高冷地のキャベツ・レタスは、降雨による作業遅れや乾燥による球肥大の遅れなど、地域により生育に差が見られます。病害虫は腐敗病、軟腐病、株腐病、タマナギンウワバ、オオタバコガ、一部でアブラムシ類の発生が見られます。
- ・ ねぎは、概ね順調な生育ですが、大雨等の影響により葉先枯れや生育停滞が一部で見られます。病害虫では、葉枯病、軟腐病、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエの発生が見られます。

2 技術対策

(1) 共通

ア 台風等による大雨や強風対策

台風等による大雨や強風が多い時期になります。ハウス等のほ場周囲の明きょや排水溝の補修を行うなど、排水対策を再度確認してください。ハウスビニールの破れ、ハウスバンドの緩みの確認などを行い、必要な補修・補強を行ってください。

イ 天候に合わせた管理

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台8月20日発表）では、平均気温は高い確率が80%と予想されており、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い予報となっていることから、天候に合わせて、施設の環境管理、整枝等の栽培管理、及び品種選定などを行ってください。

(2) 果菜類【施設】の管理

ア 全般

気象条件に応じた温湿度・かん水管理を徹底します。高温の際は、遮光や換気により各種障害果の発生軽減を図ります。かけ外しができる遮光幕の場合は、気温の低下に合わせて取り外して日射量を確保します。かん水量は、茎葉の繁茂状態や日射量に応じて調整します。また、通常年であれば、これからの時期は秋雨前線が活発になり、施設内が高湿度になる恐れがあります。適切な換気や摘葉等により、適正な湿度環境（湿度70%～85%、飽差3～9）を維持します。

イ きゅうり

- ・ 早熟作型の長期どりでは、茎葉の過繁茂による側枝の発生不足や通気不足による病虫害の発生を防ぐため、適宜、摘葉や整枝を行うとともに、防除を行います。
- ・ 抑制作型では、生育が旺盛で側枝の節間が長くなるため、整枝、摘葉作業が遅れないように管理します。また、ウイルス病（ZYMV、写真1）が発生しやすい時期のため、伝染源となる発病株は見つけ次第抜き取ります。



写真1 ZYMVの症状（左：葉、右：果実）

ウ トマト

- ・ 裂果の発生を防ぐために、土壌水分の急激な変化を起こさないよう、かん水は少量多回数にします。また、夜間の土壌水分が過剰とならないよう、曇天時には最後のかん水時間を早めるなど、天気に応じて回数を調整します。ハウス外からの雨水の横浸透にも留意します。また、9月以降は早朝の急激な気温上昇で果実が結露しやすくなるので、早めに換気を行い、果実表面の結露を防止します。
- ・ 主枝の摘心は、収穫打ち切りの日から逆算して決めます（10月末まで収穫する場合、9月上旬頃が目安）。開花花房の上の葉を2～3枚残して摘心すると、放任よりも果実肥大が良くなります。
- ・ ハウス内の最低気温が14℃を下回るようになったら保温を行います。
- ・ 病害では、葉かび病とすすかび病は見た目では区別ができないので、顕微鏡での分生子（胞子）の確認等について、最寄りの農業改良普及センターに相談のうえ、効果のある薬剤を選択してください。

エ ピーマン

高温の影響による石果（種子不足）に加え、今後気温の低下とともに障害果等の発生が増えてきますので、**気象条件に応じたこまめな温度管理**に努めてください。

- ・ かん水は土壌水分の急激な変化を起こさないよう**少量多回数**とし、ハウス外からの雨水の横浸透にも留意します。
- ・ ハウス内の**最低気温 16℃**をめどに**保温を開始**し、最高気温は 25～27℃を目標とし、32℃以上の高温としないように管理します。
- ・ 気温の低下に伴い、ハウスを閉め切ることが多くなると、**湿度が上昇し病気が発生しやすくなる**ので、日中は少しでも**換気**を行いハウス内の空気を動かすようにします。
- ・ 整枝は、混み合っている部分の枝を間引く（写真2の赤丸部分を中心に）、主枝摘心後に発生する枝を2～3節で止める程度とし、強い摘心は避けます。
- ・ 気温低下とともに収穫量も減ってくるため、追肥量も減らし、翌年に残肥が残らないようにします。
- ・ 防除は、**斑点病、灰色かび病**を中心に行います。



写真2 ピーマン V 字仕立て

(3) 果菜類【露地】の管理

最新の天気予報等も参考にしながら、定期的なかん水による**土壌水分の安定化**を図るほか、**整枝管理、病虫害防除**を行います。

ア きゅうり

- ・ 夏期の着果負担による成り疲れや急激な気温の変化により草勢が低下するため、**不良果などの摘果、摘葉、追肥**で草勢回復を図ります。
- ・ 摘心はアーチの外側に飛び出しているところを指先で止める程度にとどめます。
- ・ 摘葉は、新葉が常に発生するよう、**日光がアーチ内部に十分入る**ように行います（図1）。
- ・ 追肥は**速効性**の肥料を利用します。液肥を薄い濃度で葉面散布することもあります。
- ・ 防除は、**古葉や病葉を摘葉し、アーチの上部にも薬剤がかかる**ように散布してください。

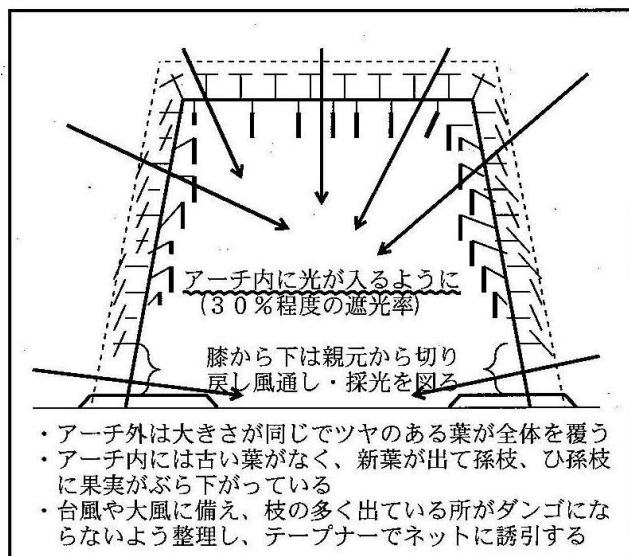


図1 露地きゅうり後半の管理ポイント

イ ピーマン

着果量が多い時期になりますが、高温下で形成

された花器は肥大能力が劣り、収穫遅れによる赤果の発生が多くなります。また品種によっては、気温低下による黒変果の発生が多くなります。

- ・ 尻腐果の発生軽減として、**かん水による土壌水分の安定化**を図ります。
- ・ 草勢の維持を優先し**枝は放任**とします。
- ・ 追肥は9月中旬までを目安に終了します。
- ・ 変形果、障害果等で出荷に向かない果実は、**早めに摘果**し草勢維持を図ります。
- ・ 防除は、**斑点病、炭疽病、斑点細菌病、タバコガ類**を中心に行います。

(4) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

- ・ 現在秋まき品種への切り替え時期ですが、前述の1ヶ月予報（仙台管区气象台8月20日発表）では平均気温は高いと予想され、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。最新の天気予報等も参考にしながら、各地域で示されている品種体系に基づき、**適期に品種の切り替え**を行います。
- ・ 高温傾向の際は、萎凋病の発生に注意が必要ですが、気温が低下しハウスを閉める時間が長くなると、**べと病が発生しやすい**ので、抵抗性品種であっても**日中は積極的に換気**を行い、適用のある殺菌剤を予防散布します。
- ・ 害虫では、ハウレンソウケナガコナダニやシロオビノメイガ等が発生しやすいので、適用のある殺虫剤で適期に防除します。

イ キャベツ・レタス

高冷地では今年の定植は概ね終了しています。今後は栽培管理をしっかり行い、**適期収穫により収穫率の向上**を目指します。

- ・ 腐敗病、軟腐病は**最低気温が20℃を上回り、かつ降雨がある場合に発生が多くなります**。今後も平年より高い気温が予想されるため、殺菌剤を予防散布します。
- ・ 害虫では、ヨトウムシ、**オオタバコガ**等が発生しやすいので、適期防除を実施します。
- ・ 収穫終了後の廃棄株や残さは放置せず、病虫害の発生源とならないように注意してください。

ウ ねぎ

台風等の強風による倒伏等の被害を減らすため、**適期での土寄せと黄色斑紋病斑（葉枯病、写真3）による品質低下対策**を徹底してください。

- ・ 出荷計画を明確にし、それに合わせて最終培土を実施する時期を決めてください。**最終培土は、収穫の20日前～30日前を目安**に行います。
- ・ 防除は、べと病、葉枯病、ネギアザミウマを主な対象として実施してください。



写真3 黄色斑紋病斑
の症状

エ アスパラガス

- ・ これからの追肥は、貯蔵根への養分転流の妨げになるので行わないようにします。
- ・ 茎葉を最後まで健全に保つため、**病虫害防除を徹底**します。
- ・ 倒伏防止対策をしている場合は、台風等に備えて再度**ネットや誘引線の確認**を行います（写真4）。



写真4 フラワーネット利用
による倒伏防止例

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第6号 花き

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共 通 ほ場が乾燥する前にかん水しましょう。
適期収穫と出荷選別を徹底しましょう。
台風等による強風に備え、ネットと支柱を点検、補強しましょう。
- ◆ りんどう 花腐菌核病、黒斑病、オオタバコガ等病害虫の適期防除を行いましょう。
定植ほ場や収穫後のほ場も病害虫防除を継続しましょう。
- ◆ 小 ぎ く 白さび病、オオタバコガ、ハダニ類等病害虫防除を徹底しましょう。
収穫後管理を適切に行い、健全な伏せ込み苗・株を確保しましょう。

りんどう

1 生育概況

盆需要期向けの早生種は、概ね需要期に出荷となりました。また、中生種、晩生種の開花が始まっています。病害虫では、黒斑病やオオタバコガ、ハダニ類の発生が増加しています。また、葉枯病、アザミウマ類、リンドウホソハマキの発生がみられています。

2 栽培管理

（１） かん水・排水対策

高温が続いていますので、ほ場が過度に乾燥しないよう通路かん水を行います。ただし、高温時に長時間滞水すると根が弱り、株に障害が発生する場合があるので、かん水の時間帯に注意します。

また、大雨に備え水路などからの流入水を防ぐため、畦畔の補強、水路の泥やごみの除去を行います。ほ場が冠水した場合は、排水路に水が流れやすくなるよう溝切りをして速やかに排水します。

（２） ネット管理

茎が曲がらないよう随時ネットの位置を調整します。併せて、今後の台風等による強風に備え、ネットと支柱を点検し補強します。

（３） 収穫・調製

収穫前に各地域の目揃会等で出荷規格を確認し、それに応じた選別、調製を行い出荷します。特に、適切な開花状態（切り前）で出荷できるよう収穫遅れに注意し適期に収穫します。

収穫時は、出荷規格に合わせ、折り取る切り花の長さを調節します。株養成を充実させるため、下葉ができるだけ多く残るように収穫します。下葉を 50 cm 以上残して収穫する場合は、株養成用の茎を残さずに全茎を収穫します。

(4) 残花処理

病虫害防除等を目的として、収穫が終わったほ場の花蕾の着いている部分の茎を折り取り、ほ場外で処分します。この作業は、花腐菌核病やオオタバコガ、アブラムシ類、アザミウマ類の防除に特に有効です。

3 病虫害防除

(1) 花腐菌核病

夏の暑さを経過して気温が低下すると、ほ場に病原菌の子実体(きのこ)が発生し(写真1)、胞子が花蕾に付着して感染します。また、冷涼地ほど早く発生する特徴があります。青花や紫花品種は感染すると花弁が鮮やかなピンク色に変色しますが(写真2)、桃花や白花品種では淡褐色となり、花色によって病斑の色が異なります。

今年は気温が高く、まだ子実体の発生は確認されていませんが、平年の防除開始時期は、県北部及び山間地域で8月第5～6半旬、県中部以南の平坦地で9月第1～2半旬となります。今後、各地域の農業改良普及センターの情報等を参考に防除を開始します。併せて、感染・伝染源となる残花の除去を徹底します。



写真1 株元に形成された子実体(きのこ)
(傘の直径は大きいもので5mm程度)



写真2 花腐菌核病発生花(右側)
(左の無病花と比べてピンク色に変色)

(2) 黒斑病

7月中旬以降発生が増加し、上位葉での発病も確認されています。本病の治療は困難ですので**降雨前の予防散布を継続**します。黒斑病は、着蕾期以降、上位葉、がく片、側芽で発病しやすいので、薬剤散布時は**花蕾部に薬剤が付着するように散布**します(写真3)。

また、収穫が終わったほ場で感染が拡大し、隣接するほ場の感染源となっている事例がみられますので、**収穫後も薬剤散布を継続**します。

黒斑病は草勢が衰え、葉が黄化した株で発生しやすくなります。降雨後に通路が滞水しないよう**排水対策を併せて実施**します。



写真3 上位葉、がく片に発生した黒斑病

(3) 葉枯病

現在、発生は少なく抑えられていますが、秋季にも発生が拡大する場合がありますので、**降雨前の予防散布を継続**します。これから収穫するほ場と合わせ、収穫が終わったほ場や定植ほ場の防除も行います。

(4) オオタバコガ

8月に入り産卵や幼虫による食害が増えています。また、ほ場に収穫されずに残された花の内部で幼虫が確認されています。収穫しない花蕾をほ場に残すことで次世代の発生源となりますので、**花蕾は必ず折り取りほ場外で処分**します（写真4）。

薬剤防除については、一般に老齢幼虫には防除効果が劣るため、発生初期に有効薬剤を散布します。オオタバコガは花蕾部に多く産卵しますので、**花蕾部に薬剤が付着するように散布**します（写真5）。



写真4 オオタバコガの食害痕



写真5 花弁に産卵されたオオタバコガの卵

(5) ハダニ類

発生が継続しています。今後も高温傾向で推移した場合、例年よりも遅い時期まで発生する可能性があります。**発生状況によっては追加散布を検討**しますが、同一系統薬剤は年1回の使用を基本とします。

ハダニ類に薬剤が付着しなければ薬剤の効果が得られませんので、葉裏にしっかり薬剤がかかるよう、**動力噴霧器の圧力を高めにして丁寧に散布**します。

小ぎく

1 生育概況

8月咲き品種は、概ね盆需要期に出荷となりました。9月咲き品種は着蕾が始まっており、生育は平年並みとなっています。病虫害では、オオタバコガ、白さび病の発生が増えています。また、ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類の発生が継続してみられています。

2 栽培管理

(1) かん水・排水対策

気温が高い状況が続いています。**乾燥が続く場合は茎葉が萎れる前にかん水**します。

湿害に弱いため、大雨後は排水対策が重要です。ほ場内が冠水した場合は、溝切り等によって**速やかに排水を促**します。

(2) ネット管理

りんどうと同様、茎の曲がりが生じないように、随時フラワーネットの位置を調整します。また、今後の台風等に備え、**ネットと支柱を点検・補強**します。

(3) 収穫・調製

収穫前に各地域の目揃会等で出荷規格を確認し、それに応じた選別、調製を行い出荷します。特に、適切な開花状態（切り前）で出荷できるよう収穫遅れに注意し**適期に収穫**します。気温が高い時期は収穫後の開花が進みやすいので、切り前に注意します。

(4) 収穫後管理

伏せ込みに利用する株は、収穫後に地上部が伸びすぎないように地際5～10cmのところでは刈りをします。その後、速効性の化成肥料を窒素成分量で3kg/10a程度施用します。マルチ栽培では、刈り後にマルチを除去して土寄せし、生育を促すのが基本ですが、除草労力を考慮して実施の可否を決めます。なお、かき芽で伏せ込む場合は、刈り後に発生した側枝に土寄せをして側枝の発根を促します。

3 病虫害防除

(1) 白さび病

7月下旬に降雨が多かったことから、8月に入り発生が増えています。**降雨前の薬剤散布で予防**に努めます。発病後は罹病葉を除去しほ場外に持ち出して処分、治療効果の高い薬剤を散布します。今後気温の低下とともに発病しやすくなります。収穫前のほ場と併せ、収穫後も継続して薬剤散布を行います。

(2) オオタバコガ

各地域で茎頂部や蕾の食害が確認されています。防除のポイントはりんどうと同様ですが、着蕾期以降に発生した場合、中齢以降の幼虫は花蕾に潜り込んで食害していることが多いので、食毒作用のある有効薬剤を選択します（写真6、7）。また、収穫が終わったほ場の**花蕾は必ず折り取りほ場外で処分**します。



写真6 オオタバコガの蕾の食害痕
(内部を食害)



写真7 オオタバコガの花の食害
(筒状花、子房部分)

(3) ハダニ類

8月以降も発生が継続しています。ほ場をよく観察し、発生初期の防除を心がけます。ハダニ類に薬液が付着しなければ薬剤の効果は得られませんので、葉裏にしっかり薬液がかかるよう、**動力噴霧器の圧力を高めにして丁寧に散布**します。

4 伏せ込み床の施肥について

同じハウスで何年も伏せ込みをしている場合、長年の肥料成分の蓄積（塩類集積）によって根が肥料焼けを起こし生育不良となる事例がみられます（写真8）。積極的に土壌診断を行い、**処方箋に基づいた適正施肥**を行います。また、塩類集積が過度に進行している場合は、土壌中の肥料成分を減らす（除塩）ことが必要となりますので、最寄りの農業改良普及センターまで御相談ください。



写真8 塩類集積による伏せ込み株の生育不良
※根の障害により養水分を十分に吸収できず、葉の黄化や生育不良がみられる

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第6号 果樹

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんご 早生種はすぐりもぎが基本です。病虫害防除は、発生予察と適期の薬剤散布を徹底しましょう。なお、早生種は収穫期を迎えるため、農薬の使用基準を遵守し、ドリフトには十分注意しましょう。
- ◆ ぶどう 全般的に熟期が早まっています。食味を重視した適期収穫を徹底しましょう。

りんご

1 生育概況

生育診断圃の果実生育(横径)は、8月1日時点の県平均で、「ジョナゴールド」が平年比102%、前年比109%、「ふじ」が平年比111%、前年比114%です(表1)。

7月は日照時間が平年より少ない地域が多かったものの、降水量は平年並以上に確保され、前年のような干ばつにならず、現時点の生育は平年及び前年を上回っています。

なお、向こう1か月の平均気温は平年より高い見通しであり(8/20、仙台管区气象台発表)、収穫に向けては、令和8年7月24日発行の「農作物技術情報特別号 高温対策」を参考に、着色の遅延や収穫前落果等に注意するほか、日焼けなどの被害を受けた果実を中心に必要に応じて摘果を実施します。

表1 生育診断圃における果実生育(横径)状況(8月1日現在)

(単位:mm)

市町村	地 区	ジョナゴールド					ふ じ				
		本年 (R8)	平年	比	前年 (R7)	比	本年 (R8)	平年	比	前年 (R7)	比
県農業研究センター※1		71.8	70.8	101%	73.2	98%	65.2	64.1	102%	62.6	104%
盛岡市	三ツ割	71.5	69.8	102%	63.9	112%	67.4	62.7	107%	55.4	122%
花巻市	石鳥谷※2	70.7	71.1	99%	64.5	110%	71.0	62.5	114%	57.6	123%
奥州市	江刺樽輪	65.8	65.8	100%	56.4	117%	68.1	62.4	109%	54.3	125%
一関市	狐禅寺※3	72.3	69.9	103%	66.9	108%	65.9	60.9	108%	61.0	108%
陸前高田市	米崎	69.9	70.0	100%	70.5	99%	73.4	63.2	116%	64.8	113%
宮古市	崎山	-	-	-	-	-	74.1	64.7	115%	68.4	108%
二戸市	金田一	75.0	69.1	109%	67.4	111%	68.6	63.3	108%	65.6	105%
県平均値※1(参考)		70.9	69.3	102%	64.9	109%	69.8	62.8	111%	61.0	114%

※1 県平均値に農研センターのデータは含まれていない。 ※2 R4年度から定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子(前定点)の値を使用。

※3 R2年度から定点が変更となったため、平年値は一関市花泉(前定点)の値を使用。 ※4 平年値は昭和60年～令和7年の平均

2 栽培管理のポイント

(1) 早生種

ア 仙台管区気象台の1ヶ月予報(8/20発表)では、向こう1か月の天候は、平均気温は平年より高い見通しです。このため、高温により着色が緩慢となり、果皮色と内部品質が一致しないまま収穫期を迎える可能性があります。過度な着色は期待せず、食味・硬度等を確認の上、適期収穫に努めてください。

イ 直射日光が果皮へ急に当たると日焼けが発生しますので、葉摘みは徐々に進めます。高温が予想される日には、極力、果面の温度が上がる午後から葉摘みを実施します。

ウ 今年の満開日から見た収穫開始の予想日は表2のとおりですが、この目安は北上市成田の満開日から算出しています。自分の園地の満開日をもとに収穫予想日を算出しつつ、食味・硬度等を確認の上、適期収穫に努めます。

エ すぐりもぎを基本とし、特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」では徹底します。

表2 早生種の収穫期の目安

品種	満開日※1	収穫期 までの 満開後日数	満開後日数 による 収穫予想日※2	収穫期の果実品質の目安			
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数	カラーチャート 指数※3
きおう	4月29日	115 ~ 125日	8月22日 ~ 9月1日	13~14	13以上	2~3	2.5~3.5
つがる	4月29日	115 ~ 125日	8月22日 ~ 9月1日	13~14	12~14	3~3.5	2~3

※1 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日 ※2 収穫開始予想日

※3 つがるはふじ地色用、きおうはきおう表面色用を使用

(2) 中生種

ア 「紅いわて」の収穫

(ア)「紅いわて」は着色の良い品種であるため、着色のみで収穫を判断すると、収穫時期が早くなり、食味が劣り、品種の評価を落とすことになります。表3のように、自分の園地の満開日をもとに収穫開始の予想日を算出しつつ、食味を重視して適期収穫に努めます。

(イ) 系統販売など輸送して販売する場合は、デンプン指数2~2.5、直接販売する場合はデンプン指数2程度を目安に収穫してください。

(ウ) 夏季が高温の年は、「紅いわて」に早期みつ症が発生することがあります(写真1)。発生程度は軽微なものが多いものの、みつ入りが多くなるほど収穫時のみつ褐変が生じる可能性が高くなりますので(写真2)、着色が進んだ果実で果皮上からみつ入りが判断できる場合は、出荷物に混入させないように注意します。

表3 「紅いわて」の収穫期の目安

品種	満開日※1	収穫期 までの 満開後日数	満開後日数 による 収穫予想日※2	収穫期の果実品質の目安		
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数
紅いわて	4月28日	130 ~ 140日	9月5日 ~ 9月15日	13以上	13以上	2~2.5

※1 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日 ※2 収穫開始予想日

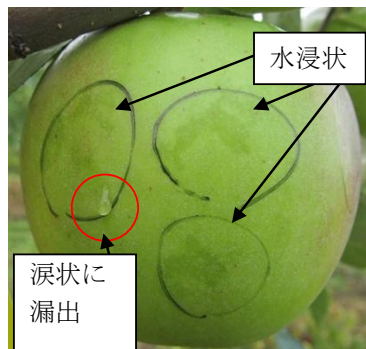


写真1 早期みつ症果の症状



写真2 収穫時のみつ褐変の症状

イ 中生品種（「紅いわて」以外）の着色管理

- (ア)「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉かげや枝かげをつくらないように収穫まで玉回しを2～3回行います。玉回しと同時に適当な強さに葉を摘みます。
- (イ)着色の適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みをしていても着色は進まないなので、過度の葉摘みとならないよう注意します。

(3) 晩生種

- ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下旬～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉かげや枝かげを残さないよう玉回しを行います。
- イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください。

3 病虫害防除および気象災害対策

(1) 病虫害防除

- ア 病虫害防除所が発表する病虫害発生予察情報を参考に、必要に応じて防除を実施します。特に、褐斑病や斑点落葉病の発生状況に注意します。
- イ 昨年スモモヒメシンクイの被害があった園地や9月が高温で経過する場合は、シンクイムシ類に効果のある薬剤を9月上旬～中旬に散布します。
- ウ 果樹カメムシ類が大量に飛来した場合は、効果の高い薬剤により速やかに防除を行います。
- エ 早生品種の収穫期となっているので、農薬の使用にあたっては、ドリフトや使用基準倍率、収穫前日数等）に特にも注意してください。

(2) 台風対策

強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、最新の気象情報を確認し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限になるよう対策を講じてください。

(3) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨などで園地内が過湿になった場合、根部の障害による樹勢衰弱や裂果等が発生しやすくなります。園地内に水が停滞しないよう、ほ場に溝を掘るなど排水対策を講じてください。

ぶどう

1 生育概況

生育診断圃の「キャンベルアーリー」は、8月15日時点の糖度（Brix値）が15.4%で平年より高く（表4）、収穫の目安に達しました。また、果房長は20.8cmで平年及び前年を上回り、果径は18.6mmで平年及び前年並です（表4）。

なお、向こう1か月の平均気温は平年より高い見通しであり（8/20、仙台管区气象台発表）、高温で着色が緩慢となる可能性があるなか、糖度は高く、酸の低下が早いことが想定されることから、過度な着色は期待せずに、食味を重視した適期収穫を行います。

表4 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(観測地点:紫波町赤沢)

調査年次	8月15日時点での生育				
	新梢長 (cm)	節数 (葉数)	果房長 (cm)	果径 (mm)	糖度 (brix%)
本年(R8)	174.1	22.0	20.8	18.6	15.4
平 年	138.7	17.4	15.4	19.0	9.3
平年差・比	126%	126%	135%	98%	6.1
前年(R7)	163.9	17.0	16.1	18.4	15.8
前年差・比	106%	129%	129%	101%	-0.4

※平年値は、昭和49年から令和7年の平均値。

2 収穫

収穫は着色、糖度などの食味に留意しながら、品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熟になると商品価値が低下し、裂果や脱粒の発生も助長しますので、着色は過度に期待せず適期収穫に努めてください。

※ 詳細は、7月30日発行の「農作物技術情報第5号 果樹」を参照ください。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyau/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第6号 畜産

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 飼料用とうもろこし 収穫適期（黄熟期）の判定を行い、収穫作業をすすめましょう。サイレージ調製は十分な踏圧と速やかな密封を行いましょう。
- ◆ 牧 草 最終刈取と秋施肥は、刈取危険帯を避けて行いましょう。更新や追播は、播種が遅れないように作業を進めましょう。
- ◆ 冬 作 物 ライムギなどの冬作物で粗飼料を確保しましょう。
- ◆ 大 家 畜 牛舎の暑熱対策を継続して実施し、健康観察や良質飼料給与を徹底して体力の回復に努めましょう。

1 飼料用とうもろこし

（1）生育状況

7月上中旬の気温は平年並みか低い傾向でしたが、下旬は平年を上回り、断続的な降雨があったことから、雄穂の抽出は例年より数日早い地域が多くなっています。早いところでは、8月下旬から収穫作業が始まっています。

（2）刈取適期の判定

収穫適期は、「黄熟期」です。これより早いと、水分が高いだけでなくデンプンの蓄積が不十分であり、排汁とともに栄養分が流出します。また、黄熟期より遅れると、消化率が低下するほか、水分が下がりすぎて踏圧、密封が不十分となり、カビの発生や不良発酵しやすくなります。

黄熟期の判定は「ミルクライン」による方法が簡単です（写真1）。とうもろこしの雌穂（実）の中程を折って先端側の子実を見ると、黄色い部分と乳白色の部分に分かれています。この境目を「ミルクライン」と言い、熟度が進むにつれて子実の外側から中心に向かって、黄色い部分が増えていきま



写真1 黄熟中期のミルクライン

す。収穫適期である黄熟中期は、ミルクラインが子実の外側から40～50%に達した頃です。なお、破碎処理を行う場合、収穫期を黄熟後期～完熟期まで拡大することが可能です。

これまでは、絹糸抽出から40～50日程度で黄熟期に到達するとされていましたが、近年は気温が高い期間が長くなっていることから、子実の登熟はこれよりも早まると考えられます。収穫機械やサイロの点検、資材準備を早めに行い、収穫に備えます。

（3）サイレージ調製

ア 細断

破碎処理を行わない場合は切断長10mm程度とします。破碎処理を行う場合は、切断長19mm、ローラー幅5mmに調整します。黄熟後期以降は、消化率を高めるためローラー幅を2～3mmに調整

します。目的のサイズで細断できるよう、また切断面が鋭利となるよう、ハーベスタの刃の調整と研磨を行います。

イ 添加剤の活用

乾燥による水分不足や霜に当たった場合、または収穫遅延や病害等で枯れ上がりが進んだ場合は、添加剤の使用を検討します。

乳酸発酵の促進には、乳酸菌製剤、酵素剤、糖蜜等を、不良発酵の抑制には、ギ酸等を使用して、良質発酵に努めます。

ウ 詰め込み・踏圧

サイレージ調製は、踏圧密度を高め、空気を遮断することが基本です。踏圧をしっかり行うことにより、発酵品質をある程度安定させることができます。踏圧作業の担当者は、時には運搬ダンプを待たせてでもしっかり踏圧を行うことが大切です。

土砂の混入を避けるため、運搬トラックはサイロの手前で原料を下ろします。フロントローダ等を用いて、サイロ全体に薄く（厚さ 10～20cm）広げ、速やかに踏圧を行います（図 1、写真 2）。

原料はサイロの壁側をやや高く積み、壁に向かって踏圧します（図 2、写真 3）。

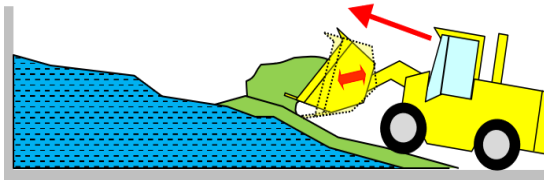


図 1 原料を 10～20cm 厚さに広げる



写真 2 原料を 10～20cm 厚さに広げる



図 2 原料は壁側を高く、中央部は凹型に広げる



写真 3 壁に向かって踏圧する

エ 密封

変敗の原因となる好気性微生物の増殖を抑えるため、収穫の当日に踏圧、密封までを行うのが理想です。やむを得ず 2 日にわたる時は、1 日目の作業終了時にギ酸やプロピオン酸を散布して仮被覆します。気密性の高いサイロでは 2 日目の作業を始める前に十分に換気して、ガスによる窒息、中毒事故を回避します。

踏圧作業後は、速やかにサイロビニールやスタックシートなどで原料を被覆し、シートが浮かないよう、廃タイヤ等で押さえます。

2 牧 草

（1）生育状況

2 番草の収穫は、断続的な降雨の影響もあり、7～8 月の長期にわたっています。生収量に対して乾物収量がやや少ない傾向にあります。

(2) 最終刈取と施肥

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、短日日長（日の出から日の入りまで13時間未満）になると越冬準備と来春の花芽分化を始めます。越冬のため、茎基に養分を蓄える時期は平均気温が5℃以下になる日から遡って30日前（積算気温270℃）の頃で、刈取危険帯といわれます。刈り取りと施肥は刈取危険帯前に行うのが合理的です。

県内各地のアメダスデータから、平均気温5℃になる頃（以下、Aとする）、刈取危険帯（以下、Bとする）はAから積算温度270℃遡る頃、施肥最適期（以下、Cとする）はAから遡って積算気温730℃になる頃めやすを示しました（図3）。

「9～10月の気温が高い」と思っている、Aの到来が遅くなっているわけではありません。「9～10月の気温が高い」と積算温度に必要な日数は短くなりますので、B、Cの期間は短縮される傾向となります。来春の収量確保に向けて、秋作業を計画的にすすめます。

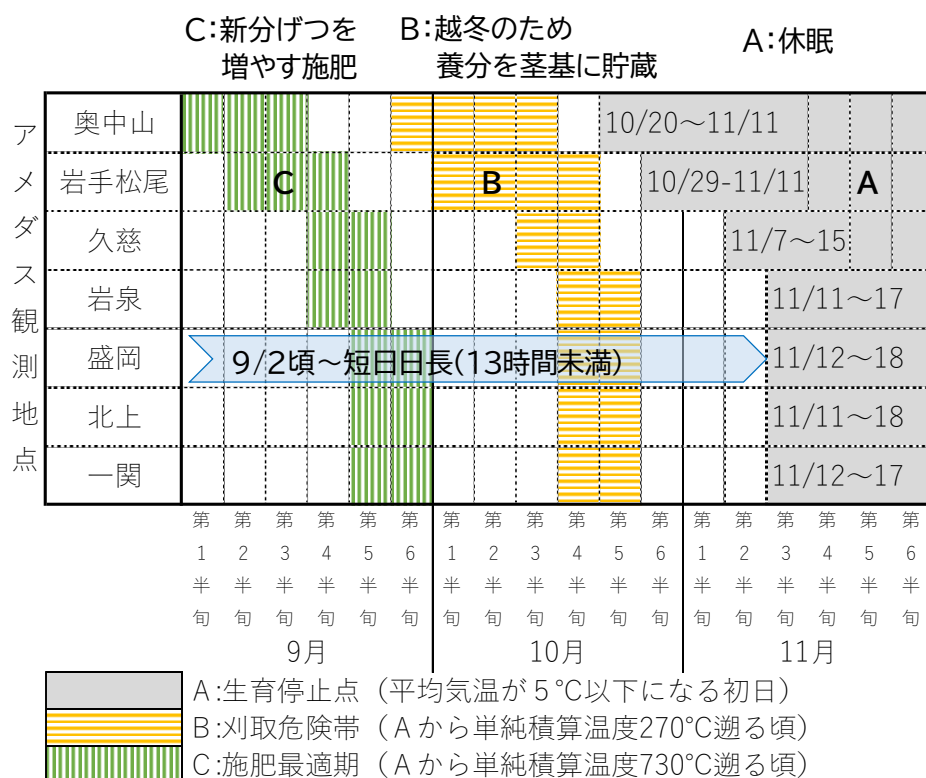


図3 地域別の刈取危険帯のめやす（2023-2025年）

(3) 追播、草地更新

夏枯れ等で生産性が低下した草地は、草地更新や追播を実施します（農作物技術情報第5号を参照してください）。積雪前に草丈10cm以上、分けつ3本以上まで生育していることが目標です。

牧草の定着を促すため、土壌pH6.5矯正量の石灰資材を施用し、牧草播種後はケンブリッジローラー等で鎮圧を行います。

3 冬作物（ライムギ等）の播種

飼料用とうもろこしや牧草が減収した場合は、ライムギ等の冬作物を播種して粗飼料を確保します。ライムギの10a当たりの現物収量は、約2tが目安です。

【播種時期】9月下旬～10月上旬 → 【収穫時期】5月上旬

【播種量】8kg/10a

【元肥】牛糞堆肥：2.5t、窒素8kg、リン酸10kg、カリ8kg/10a（土壌分析値によって調整）

【飼料成分】出穂期のライムギサイレージは、オーチャードグラス 1 番草の出穂～開花期に近い成分です（表 1）。

表 1 ライムギサイレージの飼料成分（%/乾物）

		乾物	CP	NDF	TDN	Ca	P	Mg	K
ライムギサイレージ	出穂期	29.7	13.5	66.8	56.0	0.67	0.42	0.19	4.46
オーチャードグラス 1 番草サイレージ	出穂期	26.8	13.8	62.3	64.5	0.39	0.26	0.14	1.85
	開花期	23.9	11.7	65.7	56.4				

日本標準飼料成分表 2009 年

4 大家畜

（1）牛舎内の環境

残暑が続くので、牛舎環境面の暑熱対策を継続します（農作物技術情報第 2～5 号、および高温対策特別号を参照してください）。

（2）飼養管理

ア 飲水量の確保と、水槽の掃除をこまめに行い、清潔な水をいつでも飲める状態に保ちます。

イ 良質粗飼料（消化の良い牧草やトウモロコシサイレージ）の給与を継続します。

ウ 夜間など、気温の低い時間帯の給与量を増やします。

暑熱により長期間採食量が少なかった牛は、ルーメン内の発酵酸の吸収能力が低下している可能性があるため、採食量増加に伴うアシドーシスに注意します。軟便や糞中の未消化物・粘膜が見える場合は、粗飼料の給与割合を多めにして様子を見ます。糞便の状態が落ち着いてきたら、徐々に配合飼料の給与割合を増やし、栄養を充足させます。

エ 起立時間が増加した、あるいは飼料の選び食いや固め食いが多かった牛では、蹄真皮の圧迫や炎症による蹄病が発生しやすくなります。起立した姿勢、歩行時の状態をよく観察し、問題ある牛は早めに獣医師や削蹄師に処置を依頼します。

オ 分娩牛は、分娩と暑熱両方のストレスを受けているので、いつもより注意深く観察し、異常がある場合はすぐに対処します。泌乳と発情回帰のため、良質粗飼料の優先給与、エネルギーの充足、ビタミン剤等の増給などの栄養管理を徹底します。また、分娩後 30～40 日頃に獣医師の診断を受け、子宮、卵巣の回復を確認します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第6号 野生獣対策

発行日 令和8年8月27日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ クマ人身被害防止 引き続きクマへの最大限の注意をお願いします。
- ◆ クマの特徴と対策 20～70 cmの3段を基本に電気柵を設置しましょう。

1 クマ人身被害防止

- ・ 例年に比べてクマの人里への出没が相次ぎ(図1)、死亡につながる人身事故が3件発生するなど(図2)、これまでにない危機的な状況となっています。
- ・ 今後もリスクが高い状況が続くことが見込まれますので、クマ出没状況アプリ「Bears」(図3)などにより出没状況を確認するとともに、これまではクマの出没がない地域においても、最大限の注意をお願いします。

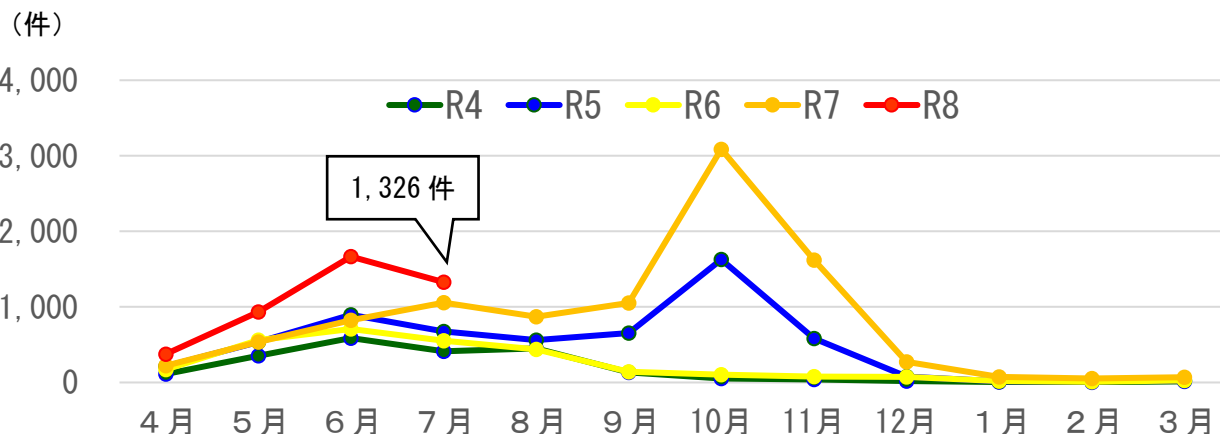


図1 クマの出没件数 (8/21 現在)

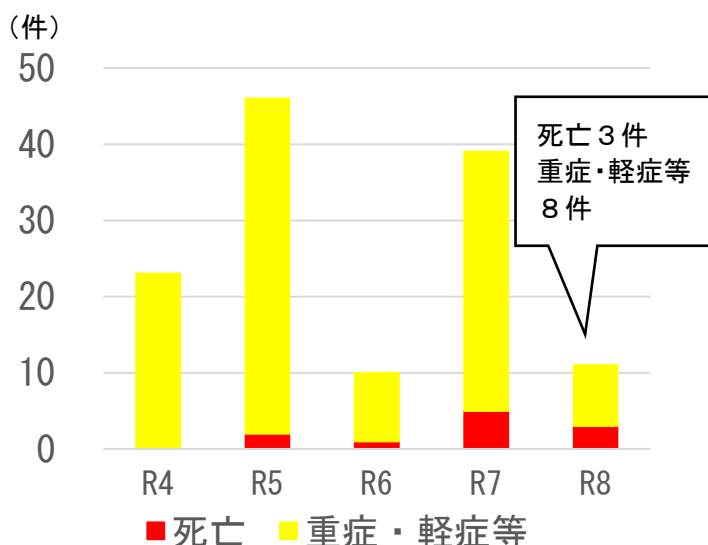


図2 クマによる人身被害 (8/4 時点)



図3 クマ出没情報アプリ「Bears」

こちらの2次元コードから登録できます!



2 野生獣の特徴と対策：ツキノワグマ

(1) 被害の現状

- ・ ツキノワグマによる農作物被害面積及び被害金額は、**年度により増減**があり、被害面積は約 25～80h、被害金額は約 1 億円～3 千万円で推移しています（図 4）。
- ・ 令和 6 年度の品目別被害金額は、**果樹、飼料作物、稲の順**となっています（図 5）。

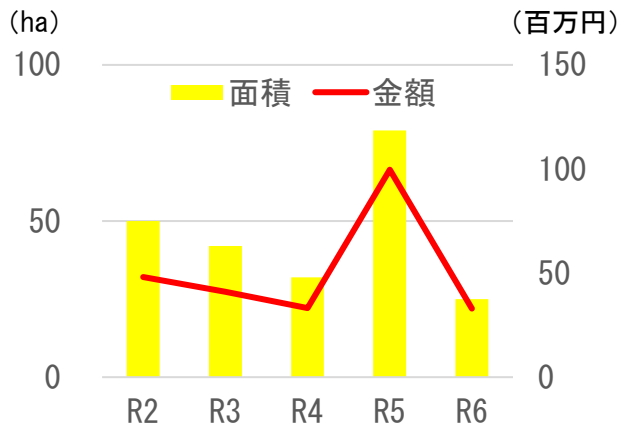


図 4 ツキノワグマによる被害面積及び金額の推移

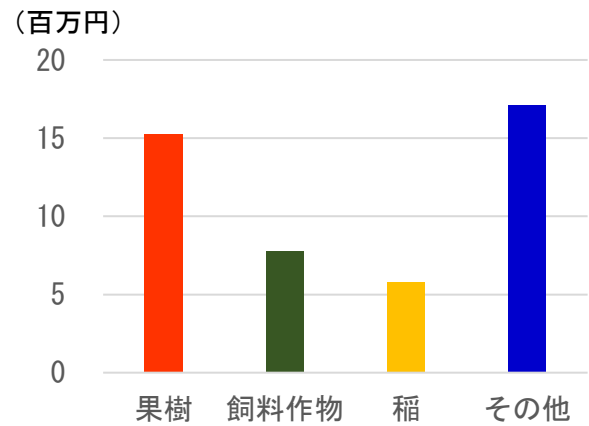


図 5 ツキノワグマによる上位 3 品目被害金額

(2) 生態

食性	植物を中心とした雑食性。
繁殖	樹洞や岩穴で越冬し、 2 頭 の子を産む。 子グマは 1 歳半頃まで母グマと生活する。
行動範囲	オス 40～70 km ² 、メス 20～30 km ² 。昼行性であるが、人里に降りて活動するときは、人との接触を避けるために 夜行性 に変わる。
その他	食べ物への 学習能力 が高く 執着 する。 一般的に考えられているよりもおく病で、おとなしい性質。

【参考】季節ごとの行動パターン

春	フキノトウ、ミズバショウ（写真 1）などの山菜、新芽や花、昆虫などを食べる。
夏	涼しい時間帯に、果実や昆虫（写真 2）などの食料を求めて歩き回る。
秋	クリ、ドングリ、ブナ（写真 3）などを食べ、冬眠に向けてエネルギーを蓄える。
冬	巣穴にこもって冬眠する。母グマは巣穴で出産のタイミング。



写真 1 ミズバショウ



写真 2 壊された朽木のアリの巣



写真 3 ブナの実

(3) 農作物被害対策

ア 生息環境管理（よせつけない）

- ・ シカやイノシシと比較し**食べ物への執着**が強く、一度味を覚えると**繰り返し現れる**傾向があります。

- クマの通り道となりやすい河川付近の茂みや耕作放棄地を刈り払うとともに、クリやカキなどの放任果樹を伐採するなど、他の獣種以上に、地域やほ場に近づけないための対策が重要です。

イ 侵入防止対策（まもる）

- 電気柵を触った時に電気刺激による痛みを学習させることで、その後は自ら近寄らなくなる電気柵が最も有効です（写真4、5、[農作物技術情報第2号](#)参照）。



写真4 電気が通る部分



写真5 電気柵に触れて逃げるクマ

- 電気柵の高さは、20、40、70 cmの3段を基本に、併せてシカも防止する場合は、100、130 cmを加えた5段とします（表1）。
- クマが農作物の味を覚え、電気柵を適切に設置しても地面を掘ってほ場に侵入する場合は、最下段の外側に「トリップ柵」を1段（高さ20 cm）追加します（写真6）。
- また、県内では、「シカ対策」として電気柵を導入したため、電気柵の高さ、段数が「クマ対策」としては適切ではなく、クマの侵入を許している事例が見受けられています。
- ほ場に侵入する野生獣が変わった場合は、獣種に応じた電気柵への改修が必要になります（図6）。

表1 獣種別の電気柵の地上部からの高さ（単位：cm）

獣種	20	40	70	100	130
ツキノワグマ ・イノシシ	○	○	○		
ニホンジカ		○	○	○	○

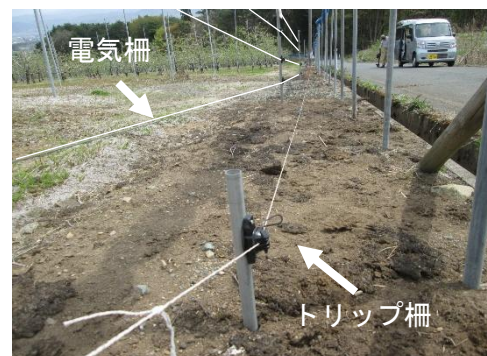
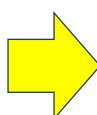


写真6 トリップ柵を追加
（トリップ柵の左側に5段の電気柵がある）



シカ対策で導入した電気柵
（5段：30、60、90、120、150 cm）



高さを調整しクマ・シカ兼用の柵に改修
（5段：20、40、70、100、130 cm）

図6 クマ・シカ兼用の電気柵への改修事例

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピールする。
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。